



培った技術をもとに
新たな逸品を生み出す

組子細工 小玉建具店

昭和17年の創業以来、天然の秋田杉にこだわりながら、障子戸やふすま、ガラス戸などの建具を製作する小玉建具店。この道約60年となる2代目の小玉順一さん(77歳・田町)は、先代の父・鉄治さん(故人)から受け継いだ技術を守りながらも、端材を活用した「組子コースター」などを開発。以来、中小企業庁長官賞をはじめとする数々の賞を受賞するなど、寸分の誤差も許されない中で磨き抜かれた技のもと、新たな商品の開発にも精力的に取り組めます。



高品質の五城目家具を
弟子とともに引き継ぐ

家具・木工品 木工興真

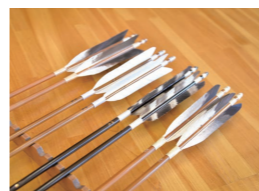
町の伝統工芸士も務めた渡辺琢智さん(故人)に18歳のころから師事し、その技術を受け継いだ3代目の菅生雄之助さん(76歳・湯上市)。センノキを主な原料とし、茶棚や花台、くず入れ、椅子、卓袱台などの日用家具をオーダーメイドで製作しています。3年前からは、家具の品質の高さや菅生さんの人柄に惹かれ、神奈川県から越してきた佐々木駿さん(33歳・秋田市)を加え、代々受け継がれる五城目家具の技を2人3脚で日々磨きます。



東北でただ一人の
伊達藩正統御矢師の技

竹矢・箆 御矢師 永澤明久さん

伊達藩に代々仕えた東北地方で唯一の御矢師一家・永澤家の12代目を務める永澤明久さん(50歳・紀久栄町)。五城目が製作の拠点となったのは祖父・則竹さん(本名・政治郎・故人)の代からで、明久さんは23歳からこの道に進んでいます。製作する竹矢は、すべてが受注生産のオーダーメイドで特注品です。山で材料となる竹選びをする段階から精神を研ぎ澄ませ、矢の神髄を極める御矢師の誇りと技により、85以上を数える工程を経て、1人ひとりの要望に合った形に仕上げられています。



職人の町・五城目から「伝統的工芸品月間国民会議全国大会・秋田の郷土工芸品展」へ出展

受け継がれる 五城目伝統の技

今月中旬に秋田市で行われる「第39回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」。古くから、人々の生活に密着したものづくりなどを通じ、多くの工芸品やその製造技術が現代に受け継がれる職人の町・五城目から、同大会の「秋田の郷土工芸品展」へ出展する方々をご紹介します。



今も変わらぬ製法と
五城目箆筒への誇り

五城目箆筒 五城目木工(有)

昭和19年に創業し、スギやケヤキを材料とした重厚で趣のある「五城目箆筒」を製作する五城目木工(有)。昭和44年には、同社の5代目で現代代表取締役の石井斌太郎さん(86歳・一番町)も製作に携わった箆筒が、全国優良家具展で最高賞となる内閣総理大臣賞を受賞するなど、全国にその名が知られています。現在は、石井隆さん(73歳・一番町)が主に製作を担当し、創業当時から変わらぬ製法により、五城目箆筒の伝統の品質を守り続けます。



弓道競技を支える
県内唯一の弓具店

弓具 (有)永澤弓具

県内で唯一の弓具店として、主に高校等の弓道競技で用いられる弓具の製作・販売を行う(有)永澤弓具。アルミ製やカーボン製の矢のほかに、的枠(的となる枠)の製作も行っており、(有)永澤弓具で作られた的枠は、多くの公式大会やインターハイ、国体などの全国大会で使用されています。また、永澤家の10代目・永澤則明さん(故人)が考案した秋田杉製の「粉入れ」は、「木目がきれい」「木のぬくもりや香りが感じられる」と好評で、全国各地の弓具店から注文が入る人気商品となっています。



第39回伝統的工芸品月間国民会議全国大会

五城目の職人の逸品を ご覧になってみませんか

11月18日(金)から20日(日)にかけて、秋田市を会場に「第39回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が開催され、日本各地の伝統的工芸品が大集合します。その中で、町の事業所等からの出展も行われます。歴史と伝統が息づく職人の逸品をご覧になってみませんか。

【町内からの出展(部門別)】

- ▶秋田の郷土工芸品展
(有)永澤弓具、御矢師 永澤明久、五城目木工(有) 木工興真、小玉建具店(工芸品ワークショップにも出展)
 - ▶工芸クラフト作家展
三温窯、佐藤木材容器、すずなり、WOOT家具
 - ▶開催日程 11月18日(金)~20日(日)
 - ▶時間 午前10時~午後5時
※20日は午後4時まで
 - ▶会場 あきた芸術劇場ミルハス、秋田市文化創造館、秋田市にぎわい交流館AU、県立美術館、秋田アトリオン
- ※イベントの詳細は右のQRコードからご覧になれます。

